

令和2年3月13日

## 2019年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状と課題を踏まえて、重点課題として3項目を取り上げた。目標達成に向けて、当該分掌部が中心となり全教職員の共通理解を図りながら取り組み、評価は以下のとおりである。

#### (1) 防災体制の整備

災害時に児童生徒を保護者に引き継ぐ「引渡し訓練」を実施し、課題をまとめて改善策を検討した。また、学校防災マニュアルを活用した研修会で、防災についての理解を深め、防災体制やマニュアルの改善を検討した。

「引渡し訓練」では、保護者に確実に引き渡す体制は整えたが、保護者の駐車場の確保や保護者への連絡体制について課題が明らかになった。研修会では、災害時の教職員の業務や校外で災害にあった場合の連絡体制や学校の対応、学校再開に向けての準備等について共通理解することができた。

#### (2) 食物アレルギーに関する理解の促進

食物アレルギーがある児童生徒が安心して学校生活を送ることができるように、児童生徒を対象に、食物アレルギーへの理解を促すための指導を行った。また、全ての職員がエピペン®の扱い方を理解し、学部や学年を超えて対応できるようになるための研修や訓練を実施した。

児童生徒の実態に合わせた教材を工夫して、食物アレルギーに関する指導を実施した結果、関心をもって授業を受けたり、アレルギーのある友達を気遣ったりする様子が見られた。また、緊急対応ファイルを新たに整備し、緊急時対応訓練を実施した。緊急事態が起こったときに、教職員がファイルを手がかりとして、的確に判断して対応できた。ファイルの内容の見直しや他の緊急時（てんかん発作や熱性けいれん等）を含めた訓練を繰り返し実施する必要がある等の課題が明らかになった。

#### (3) 教員のICT活用能力の向上

今年度、ICT教育推進事業実施校となり、ハード面・無線LAN環境等が整備され、児童生徒のICT環境が整備されてきた。そのため、個人情報の取り扱いやセキュリティ面についての研修会や新たに導入されるタブレット端末、プロジェクタ、スクリーンを効果的に活用した授業について情報交換や研修会を実施した。

研修会や授業実践等を通して、個人情報保護やセキュリティ、タブレット端末、プロジェクタ等についての知識・技能が高まり、教職員のICT活用能力向上の一助となった。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 災害発生時の対応では、教職員だけでなく、児童生徒への訓練を繰り返し実施することやできるだけ多くの保護者が引き渡し訓練に参加できるように工夫していくことが必要である。
- (2) 緊急時対応訓練を実践して得られた問題点や問題点や課題をまとめ、緊急体制について検討、改善をしながら、今後も引き続き訓練を継続していく必要がある。
- (3) 他県のHPや実践した事例集を参考にして、さらにタブレット端末を使用した授業実践や研修を重ね、教員のICT活用能力の一層の向上を図るとともに、児童生徒のタブレット端末の活用を促進する必要がある。

## 8 学校アクションプラン

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

令和元年度 富山県立しらとり支援学校アクションプラン		— 1 —
重点項目	学校生活	
重点課題	防災体制の整備	
現 状	<p>本校では、防災に関する訓練として、「火災に係る避難訓練」、「地震に係る防災訓練」等を年3回実施している。このほか、1学期には、児童生徒を保護者に引き継ぐ「引渡し訓練」を実施し、災害発生時に、保護者と教職員間で児童生徒の安全な引き渡しができるように訓練をしている。また、本校では、学校防災マニュアルを作成しているが、災害が起きた場合の、教職員の役割分担や手順等に関する学校全体の動きについて、理解が不十分であったり複雑で分かりにくいと感じたりしている教職員もいるため、災害時に速やかに対応できるよう、教職員の理解を深めるとともにマニュアルを改善する必要がある。</p> <p>災害発生時に児童生徒を確実に引き継ぐための体制整備をより一層充実するとともに、教職員一人一人がマニュアルの内容を理解し、防災に対する意識をより高めることが必要である。</p>	
達成目標	災害発生時の児童生徒引渡しに関する訓練及び研修	学校防災マニュアルの学習会の実施
	3回(訓練1回、研修2回)	3回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者への引渡し訓練を効果的に実施するため、事前に教職員の研修会を実施し、手順や課題等を確認する。</li> <li>保護者への引渡し訓練後に、参加した保護者と教職員にアンケートを実施し、課題や必要な改善策についてまとめる。その改善策を元に各学年の研修会において次年度の訓練に向けた具体的な改善案を検討する。</li> <li>学校防災マニュアルを活用した学習会を行い、防災について理解を深めるとともに、本校の防災体制について検討し、学校防災マニュアルの修正・改善につなげる。</li> </ul>	
達成度	訓練1回(6月)研修会2回(6月、8月)	第1回(8月)、第2回(9月)、第3回(10月)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期に、地震発生を想定した避難訓練を行い、引き続き、保護者への児童生徒引渡し訓練を実施した。事前に、教職員を対象に引渡しに必要な準備と流れについて確認し、共通理解を図った。引渡し訓練では、教職員が保護者と確実に引渡しをすることができた。訓練後に実施した引渡しに関するアンケート(保護者と教職員対象)で、引渡しの方法については概ね良かったものの、実際に引渡しが行われることになった場合の保護者の駐車場や災害時の連絡体制について検討事項が見つかった。また、改善策について研修会を実施し、臨時駐車場や誘導業務、緊急時連絡体制についての周知徹底の方法などについて検討した。</li> <li>災害発生時の対応として、児童生徒の登下校時と校外学習時に災害が発生した場合の対応について、学校防災マニュアルを活用し教職員で学習会を行った。校外で災害が起きた場合の学校の対応、現地の児童生徒の安否確認や状況確認の取り方などについてマニュアルを一つ一つ確認した。災害により学校が休校になった場合の教職員の業務内容や学校再開に向けての準備などについても学習会を行い、教職員それぞれの役割を理解し、流れを確認することができた。</li> </ul>	
評価	A	・引渡し訓練や研修を通して引渡し体制を充実させることができた。学校防災マニュアルを活用した学習会の実施によって理解が深まり、教職員の防災への意識が高まった。
学校関係者の意見	・地震だけでなく様々な災害と被災状況を想定したマニュアルを作成し、地域とも連携しながら、訓練等を進めていけるようになるとうい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨今、地震や台風、大雨などの被害が増えてきていることから、本校の実情に合わせて防災マニュアルを更新していく必要がある。実際に災害時に引渡しが行われることになった場合、通信困難時の対策や送迎車輛の駐車場所等についてなど、状況に応じて学校が対応することを視野に入れた整備を検討したい。</li> <li>教職員一人一人の実践的な危機予防や危険回避の判断力を向上させる研修及び訓練の工夫をする。</li> </ul>	

重点項目	学校生活	
重点課題	食物アレルギーに関する理解の促進	
現 状	<p>本校には、食物アレルギーのある児童生徒が 11 名在籍する。児童生徒が安全に安心して学校生活を送るためには、本人はもとより周囲の児童生徒の食物アレルギーへの理解を促すことが大切と考える。また、エピペン®を処方されており緊急対応が想定される児童生徒も 3 名いる。学校には給食の他、食物を扱う授業、作業学習や部活動など、学部や学年を超えてアレルギーへの対応が必要な活動もあるため、全ての教職員がエピペン®の扱い方を理解し、生命の危機に速やかに対応できることが必要である。</p> <p>近年、食物アレルギーのある児童生徒が増加しており、食物アレルギー対応を適切に行うための校内体制の充実を図るとともに、教職員の食物アレルギーに関する意識の向上を図っていくことが必要である。</p>	
達成目標	食物アレルギーに関する指導	食物アレルギーに係る緊急時の対応に関する研修会の実施
	各学年 1 回以上	2 回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校栄養職員や養護教諭と連携して、児童生徒の実態に応じた教材を作成し、全校に紹介するとともに、学年ごとに食物アレルギーに関する指導を行う。</li> <li>心肺蘇生法と AED の使用手順や正しいエピペン®の使い方を身に付けるため、全教職員参加の初級救命講習会を実施する。</li> <li>アナフィラキシーショックが起きた場合を想定し、エピペン®の扱い方の研修も含めた緊急時対応の実践的な研修を行う。(小学部：学年ごとに 1 回以上、中・高等部：学部全体で 1 回以上)</li> <li>給食を安全に提供するために、給食当番等の配慮点や教室環境を見直すなどの安全管理を行う。</li> <li>緊急時に備えた役割カード、手順表、記録表などを見直し、整理する。</li> </ul>	
達成度	食物アレルギーに関する指導 1 回 (小学部 6 回 中学部 3 回 高等部 3 回)	初級救命講習会エピペン®の使い方 } 1 回 教職員 一人当たり } 食物アレルギーに係る緊急時対応訓練 } 1 回 2 回 (小学部 6 回 中学部 1 回 高等部 1 回)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>10 月～12 月に各学年の実態に応じて食物アレルギーに関する指導を行った。指導前には、必ず学年主任、養護教諭と学校栄養職員が、アレルギー症状に関する言葉の使い方や説明方法、配慮事項等について話し合った。その上で、各学年の実態に応じた教材を作成したり、指導のまとめとしてイラストを用いたクイズ形式を取り入れたりして関心もてるようにした。</li> <li>4 月中旬に、全教職員を対象に初級救命講習会を実施した。婦中消防署の救急救命士による心肺蘇生法と AED の使い方に関する講義、養護教諭による食物アレルギーを有する児童生徒の実態やエピペン®の使用に関する講習会を実施した。救急要請の仕方、エピペン®投与のポイント等を確認した。</li> <li>緊急時対応訓練においては、緊急対応ファイルを作成した。ファイルの中には、現場アクションカード(突発的なことが起こったときに現場に居合わせた教職員が的確に判断しながら行動できるように、具体的な指示が書いてあるカード)、学校での救急及び緊急連絡体制、緊急指示リスト等を入れた。</li> <li>食物アレルギーを有する児童生徒がアナフィラキシーショック等を起こした時刻、場所等を想定して、小学部は学年で 1 回、中・高等部は学部で 1 回、緊急時対応訓練を実施した。</li> </ul>	
評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>食物アレルギーの指導では、各学年の実態に応じた教材を作成して指導したことで、どの学年でも興味をもって真剣に話を聞いたり、アレルギーのある児童生徒を気遣ったりする様子が見られた。</li> <li>緊急時対応訓練では、学部や学年ごとに、アナフィラキシーショックが起きた場合を想定して実践したことで、いくつもの問題点や改善点が明らかになった。今後も引き続き訓練を継続していく必要性を感じている。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修は継続して行うとよい。</li> <li>校外学習時においても、緊急ファイル等を作成し、緊急時に速やかに対応できるよう体制を整えておく必要があるのではないかと。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の反省や意見を基に緊急対応ファイルの見直しや改善を図り、食物アレルギー(エピペン®を保持)のある児童生徒がいる学年は、引き続きアナフィラキシーショック等を想定して緊急時の対応訓練を実施していく。また、食物アレルギーのある児童生徒がいない学年においても、その学年に応じた緊急時(てんかん発作、熱性けいれん等)を想定し、いざというときに適切に対応できるように訓練を実施する必要がある。</li> </ul>	

重点項目	その他（情報活用）	
重点課題	教員のICT活用能力の向上	
現状	<p>本校ではICT機器の活用について、平成28年度から学部ごとに研修会を行い、児童生徒の実態に応じたアプリの紹介やアプリを使用した教材を作成している。さらに、毎年外部専門家によるICT機器の活用等に関する研修会を継続して実施しており、これらの研修を通して教職員のICT機器の活用意識の高まりがみられるとともに、タブレット端末を授業に活用する教職員が増えてきている。</p> <p>今年度、ICT教育推進事業実施校となり、ハード面では新たにタブレット端末を20台とプロジェクタとスクリーンがそれぞれ9台、新たに配備される。また無線LAN環境も整えられ、児童生徒のICT環境が整備されることになった。</p> <p>ICT機器などのハード面が充実されることから、それに伴い、個人情報の取り扱いやセキュリティ面について研修を深める必要がある。また新たに導入されるタブレット端末、プロジェクタ、スクリーンを効果的に活用した授業について情報交換や研修会を行う必要がある。</p>	
達成目標	ICT機器の活用に関する研修会の実施	タブレット端末のアプリ等を使った授業実践
	4回以上（各学部1回以上、全体1回以上）	3事例以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業におけるICT機器の効果的な活用に関する研修を各学部1回以上行う。研修は、授業で活用できるアプリの紹介やプロジェクタの使い方などワークショップの形式で行う。</li> <li>県内外の講師を招聘して個人情報の取り扱いやセキュリティに関する研修を全体で年1回以上行う。</li> <li>研修等を通して、授業で活用できるアプリ等について学び、それらのアプリ等を使用した授業実践を各学部1事例以上行う。</li> </ul>	
達成度	ICT機器の活用に関する研修会の実施	タブレット端末のアプリ等を使った授業実践
	4回（全体1回、各学部1回）	11事例（小3、中2、高6）
具体的な取組状況	<p>&lt;ICT機器の活用に関する研修会の実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報、セキュリティについて、富山県総合教育センターより講師を招き、個人情報の取り扱いやセキュリティ面についての知識、技能の充実を図るための研修会を行った。</li> <li>タブレット端末、プロジェクタ等について、各学部の図書情報部員による、タブレット端末、プロジェクタ等を効果的に使用方法についての実技講習と授業に有効なアプリの紹介を行った。</li> </ul> <p>&lt;タブレット端末のアプリ等を使った授業実践&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会を通して学んだタブレット端末のアプリや新しく導入されたプロジェクタ等を使った授業実践を各学部1事例以上、計11事例行った。これらの事例のビデオ上映会の実施と「事例活用集まとめ」の作成を予定している。</li> </ul>	
評価	A	<p>ICT機器の活用に関する研修会の実施により、情報セキュリティ、個人情報保護について教職員の知識を深めることができた。また、教職員がタブレット端末、プロジェクタ等の活用方法やアプリについて研修を行ったことにより、小学部遊びの指導では、プロジェクタで床に投影したエリアを使った「引っ越し鬼」の実践、中学部生活単元学習では、スクリーンに投影した三色食品群表に、直接食品群のカードを貼って分類する実践、高等部自立活動では、タブレット端末の電車の線路を作成していくアプリを使った線を描く指導の実践等、今までにない方法でICT機器を使った授業を工夫する教職員が増えてきた。</p> <p>これらの研修会や実践により、個人情報保護や、セキュリティ、タブレット端末、プロジェクタ等についての知識、技能が高まり、教員のICT活用能力が向上してきたと考える。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTは、苦手意識のある人にとってはハードルが高い。既存のものを利用し、児童生徒の実態に合わせて改良して使うとよい。</li> <li>ICT機器活用は、教員の負担が減る可能性があるので上手に使うとよい。</li> </ul>	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒のタブレット端末の活用を促進するとともに、タブレット端末等を使った授業実践の質を高める。</li> <li>情報セキュリティや個人情報保護について引き続き教職員の知識を高める。</li> <li>ICTの効果的に活用する取り組みについて、保護者に発信する。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）